官報

昭和二十年二月二十八日
第五千四百三十五號　水曜日

目次抄錄

●法律　司法官試補及辯護士試補タル資格ノ特例ニ關スル件　三〇一

●勅令　高等文官ノ任用資格ノ特例ニ關スル件　三〇一
奏任文官銓衡委員會官制　三〇一
司法官試補及辯護士試補銓衡委員會官制　三〇一
海軍氣象學校令　三〇一
贈藏局官制中改正　三〇二
北海道廳官制及地方官官制中改正　三〇二
總動員業務指定令中改正　三〇二

●告示　防空法ニ依リ地區指定其他　三〇三
東京財務局等設置其他　三〇三
配合飼料ノ原料ノ配合割合其他　三〇三

法律

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法官試補及辯護士試補タル資格ノ特例ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日
內閣總理大臣　小磯　國昭
司法大臣　松阪　廣政

法律第二十八號

高等試驗本試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ高等試驗ヲ行ハザル年ニ於テ銓衡委員會ノ銓衡ヲ經タルモノハ之ヲ裁判所構成法第五十八條及辯護士法第三條ノ成規ノ試驗ニ合格シタル者ト看做ス但シ昭和十六年勅令第千百二十七號第一項ニ揭グル者ニ付テハ辯護士法第三條ノ成規ノ試驗ノミニ合格シタル者ト看做ス

銓衡委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等文官ノ任用資格ノ特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日
內閣總理大臣　小磯　國昭

勅令第七十七號

高等試驗本試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ昭和十八年又ハ高等試驗ヲ行ハザル年ニ各廳ニ於テ高等官ノ候補者ト決定セラレタルモノ一定ノ修習ヲ了ヘ奏任文官銓衡委員會ノ銓衡ヲ經タルトキハ高等試驗行政科試驗ニ合格シタルモノト看做ス但シ昭和十六年勅令第千百二十七號第一項ニ揭グル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

高等試驗本試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ昭和十七年以前各廳ニ於テ高等官ノ候補者ト決定セラレ其ノ後徵集又ハ召集セラレタルニ因リ高等試驗行政科試驗ヲ受クルコト能ハザリシモノ一定ノ修習ヲ了ヘ奏任文官銓衡委員會ノ銓衡ヲ經タルトキ亦前項ニ同ジ

本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ奏任文官銓衡委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日
內閣總理大臣　小磯　國昭

勅令第七十八號

奏任文官銓衡委員會官制

第一條　奏任文官銓衡委員會ハ內閣總理大臣ノ監督ニ屬シ昭和二十年勅令第七十七號ニ規定スル銓衡ニ關スル事務ヲ行フ

第二條　委員會ハ會長一人及委員十一人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ法制局長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　會長事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　關係アル廳ノ高等官ハ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第六條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　委員會ニ書記ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　銓衡ニ關スル手續其ノ他委員會ニ關シ必要ナル事項ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ司法官試補及辯護士試補銓衡委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日
內閣總理大臣　小磯　國昭
司法大臣　松阪　廣政

勅令第七十九號

司法官試補及辯護士試補銓衡委員會官制

第一條　司法官試補及辯護士試補銓衡委員會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ昭和二十年法律第二十八號ニ規定スル銓衡ニ關スル事務ヲ行フ

第二條　委員會ハ會長一人及委員十二人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ司法次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ司法大臣ノ奏請ニ依リ高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條　會長事故アルトキハ司法大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　委員會ニ幹事ヲ置ク內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　委員會ニ書記ヲ置ク司法大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　銓衡ニ關スル手續其ノ他委員會ニ關シ必要ナル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍氣象學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日
內閣總理大臣　小磯　國昭
海軍大臣　米內　光政

勅令第八十號

海軍氣象學校令

第一條　海軍氣象學校ハ海軍兵科將校、特務士官及准士官並ニ海軍特修兵タルベキ海軍下士官及兵ニ對シ之ニ必要ナル氣象術ヲ教授スル所トス

海軍氣象學校ニ於テハ前項ノ外海軍ニ必要ナル氣象術ノ研究實驗及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査ヲ行ヒ且必要ニ應ジ海軍豫備員又ハ海軍豫備員候補者ヲ教育ス

第二條　海軍氣象學校ノ教育綱領ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條　第一條第二項ニ規定スル研究、實驗及調査ニ任ゼシムル爲海軍氣象學校ニ研究部ヲ置ク

第四條　海軍氣象學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
分隊長
研究部長
研究部員
軍醫長
主計長
附

明治二十五年三月三十一日　第三種郵便物認可

第五條　校長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス但シ第二條第一項ニ規定スル研究、實驗及調査ニ關スル事項ニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

第六條　校長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ部下ノ兵科將校席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ横須賀鎮守府司令長官特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　教頭ハ校長ヲ佐ケ教務、第一條第二項ニ規定スル研究、實驗及調査並ニ氣象術ノ教育ノ規畫ニ關スルコトヲ監理シ紀律ヲ維持ス

第十條　教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條　分隊長ハ教頭ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練ス

第十二條　研究部長ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條第二項ニ規定スル研究、實驗及調査ヲ掌理ス

第十三條　研究部部員ハ研究部部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務及衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十五條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計及給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十六條　附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　海軍氣象學校ニ於テ修習スル海軍准士官以上ヲ海軍氣象學校學生、海軍下士官及兵ヲ海軍氣象學校練習生ト稱ス

第十八條　海軍氣象學校學生ハ之ヲ左ノ三種ニ區分ス

一　本科學生

二　特修科學生

三　專攻科學生

第十九條　本科學生ハ身體强健實務ノ成績優等ニシテ氣象術ヲ修習セシムルニ適當ナル才學識量ヲ有スト認ムル海軍兵科尉官ニ就キ氣象ニ關スル要職ニ充ツルニ必要ナル學術技能ヲ修習セシムル爲海軍大臣之ヲ命ズ

第二十條　特修科學生ハ海軍兵科佐尉官、特務士官又ハ准士官ニシテ志願スルモノニ就キ又ハ特ニ必要ト認ムル者ニ對シ必要ナル氣象術ヲ修習セシムル爲海軍兵科佐尉官ニ在リテハ海軍大臣、海軍兵科特務士官又ハ准士官ニ在リテハ在籍ノ鎮守府司令長官之ヲ命ズ

第二十一條　專攻科學生ハ本科學生教程ヲ修了シタル者又ハ海軍部內ノ他ノ學校若ハ海軍練習航空隊ノ學生ノ教程ヲ修了シタル海軍兵科佐尉官ニ就キ氣象術中特ニ研究項目ヲ指定シ之ヲ專攻セシムル爲必要ニ應シ海軍大臣之ヲ命ズ

第二十二條　海軍氣象學校學生ノ修業期間ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十三條　校長ハ學生中不適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ横須賀鎮守府司令長官其ノ具申シ横須賀鎮守府司令長官其ノ具申ヲ至當ト認ムルトキハ海軍士官ニ在リテハ之ヲ海軍大臣ニ士官ニ在リテハ之ヲ在籍ノ鎮守府司令長官ニ移牒シ海軍大臣又ハ鎮守府司令長官ニ移牒シ海軍大臣又ハ鎮守府司令長官ハ其ノ學生ヲ免ズルコトヲ得

第二十四條　海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍士官タル學生ヲ免ズルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ノ規定ニ依リ學生ヲ免セラレタル者ニ對シ再ビ學生ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十九條中本科學生ノ資格ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

鎮守府司令長官ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍特務士官及准士官タル特修科學生ヲ免ズルコトヲ得

第二十五條　海軍氣象學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十六條　校長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十七條　海軍大臣ハ海軍氣象學校臨時講習科ヲ設ケ海軍軍人ヲシテ必要ナル氣象術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

第二十五條　海軍氣象學校練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十六條　校長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ學生又ハ練習生ヲ艦船部隊其ノ他海軍各部ニ派遣シ修業セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル學生又ハ練習生ハ其ノ修業ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受ク

第二十七條　海軍大臣ハ海軍氣象學校臨時講習科ヲ設ケ海軍軍人ヲシテ必要ナル氣象術ノ講習ヲ受ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ海軍航海學校ノ特修科學生トシテ氣象術ノ教程ヲ修了シタル者又ハ同校專攻科學生トシテ氣象術專攻ヲ終ヘタル者ハ各之ヲ海軍氣象學校ノ專攻ヲ終ヘタル者ハ各之ヲ海軍氣象學校ノ特修科學生又ハ練習生ヲ修了シタルモノ又ハ同校專攻科學生トシテ專攻ヲ終ヘタルモノト看做ス

海軍航海學校令中左ノ通改正ス

第一條及第十八條ノ二中「見張術及氣象術」ヲ「及見張術」ニ改ム

第一條ノ二及第八條ノ二ヲ削ル

第三條第一項中「分校長」ヲ削リ同條第二項ヲ削ル

第七條、第九條及第十條中「（分校所屬者ニ在リテハ分校長）」ヲ削ル

第十九條、第二十條及第二十七條中「見張術又ハ氣象術」ヲ「又ハ見張術」ニ改ム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日

內閣總理大臣　小磯　國昭

運輸通信大臣　前田　米藏

勅令第八十一號

燈臺局官制中左ノ通改正ス

第二條中「技師」ヲ「技師　專任七人　奏任」ヲ「事務官　專任八人　奏任」ニ、「技手」ヲ「技手　專任十六人」ニ改ム

第四條中「書記官」ノ下ニ「及事務官」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十五條中「海員養成所教官所長タルモノ除ク」ノ次ニ「燈臺局事務官」ヲ加フ

朕北海道廳官制及地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日

內閣總理大臣　小磯　國昭

內務大臣　大達　茂雄

勅令第八十二號

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「視學官　專任一人」ヲ「視學官　專任二人」ニ、「視學　專任十一人」ヲ「視學　專任十人」ニ改ム

第二條　地方官官制中左ノ通改正ス

第一條第一項中「地方視學官　專任四十五人」ヲ「地方視學官　專任六十七人」ニ、「視學　專任三十三人」ヲ「視學　專任十一人」ニ改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕總動員業務指定令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和二十年二月二十七日

內閣總理大臣　小磯　國昭

海軍大臣　米內　光政

外務大臣兼東亞大臣　重光　葵

陸軍大臣　杉山　元

國務大臣　石渡莊太郎

國務大臣　町田　忠治

國務大臣　前田　米藏

運輸通信大臣　松阪　廣政

司法大臣　大達　茂雄

內務大臣　大達　茂雄

文部大臣　伯爵兒玉　秀雄

國務大臣　緒方　竹虎

農商大臣　島田　俊雄

國務大臣　小林　躋造

軍需大臣　吉田　茂

厚生大臣　相川　勝六

大藏大臣　津島　壽一

勅令第八十三號

總動員業務指定令中左ノ通改正ス

第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　國家總動員上必要ナル土木建築ニ關スル業務

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

告示

◎內務省告示第三十七號

防空法第五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ左ノ通地區ヲ指定ス其ノ關係圖面ハ兵庫縣廳及神戶市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和二十年二月二十八日

內務大臣　大達　茂雄

第一　防空空地（疎開空地）

第一番　位置　神戶市地內　約二六、九四〇

第六百六十二號乃至第六百八十五號

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

第二　空地帶（疎開空地帶）

第一番　位置　神戶市地內　約四、四〇〇

第一號乃至第十四號

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

◎內務省告示第三十八號

防空法第五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ左ノ通地區ヲ指定ス其ノ關係圖面ハ兵庫縣廳及尼崎市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和二十年二月二十八日

內務大臣　大達　茂雄

第一　防空空地（疎開空地）

第一番　位置　尼崎市地內　約一、〇〇〇

第二百十九號乃至第二百二號

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

◎內務省告示第三十九號

防空法第五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ左ノ通地區ヲ指定ス其ノ關係圖面ハ兵庫縣廳及西宮市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和二十年二月二十八日

內務大臣　大達　茂雄

第一　防空空地（疎開空地）

第一番　位置　西宮市地內　約二、六〇〇

第二百五十七號乃至第二百七號

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

◎內務省告示第四十號

防空法第五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ左ノ通地區ヲ指定ス其ノ關係圖面ハ山口縣廳及下關市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和二十年二月二十八日

內務大臣　大達　茂雄

第一　防空空地（疎開空地）

第一番　位置　下關市地內　約二、八〇〇

第一號及第二號

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

◎大藏省告示第七十一號

東京財務局及麴町稅務署ハ昭和二十年二月二十六日左記ニ移轉セリ

昭和二十年二月二十八日

大藏大臣　津島　壽一

東京財務局　東京都麴町區霞ケ關三丁目二番地

麴町稅務署　東京都麴町區霞ケ關三丁目二番地

◎大藏省告示第七十二號

名古屋財務局管內熱田稅務署ハ昭和二十年二月二十日名古屋市中區古澤町七丁目二番地ニ移轉セリ

昭和二十年二月二十八日

大藏大臣　津島　壽一

◎陸軍省告示第十一號

昭和二十年二月陸軍省告示第三號中左ノ通改正ス

昭和二十年二月二十八日

陸軍大臣　杉山　元

第二號第一號中「別紙樣式ニ依ル聯隊區司令官ノ徵兵身體檢査證明書（第三號第二項ノ但書該當者ノミトス）」ヲ削除シ第三號第2號ヲ「2身體檢査ハ概ネ三月上旬又ハ中旬實施スヘシ」ニ改メ別紙樣式ヲ削除ス

◎農商省告示第百二十九號

飼料販賣取締規則第一條ノ規定ニ依リ配合飼料ノ原料ノ配合割合左ノ通指定シ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年五月農林省告示第三百三十號（飼料販賣取締規則第一條ノ規定ニ依ル配合飼料原料配合割合指定ノ件）、同年月農林省告示第四百四十九號（同）、同年十月農林省告示第七百四十二號（同）、同年十二月農林省告示第八百九十號（同）、昭和十七年四農林省告示第百九十六號（同）、同年年月四農林省告示第二百五十二號（同）、同年六月農林省告示第四百五十一號（同）、昭和十八年七月農林省告示第四百八號（同）、同年十月農林省告示第五百五十一號（同）及昭和十九年二月農商省告示第八十八號（同）ハ昭和二十年二月二十八日限リ之ヲ廢止ス

昭和二十年二月二十八日

農商大臣　島田　俊雄

家畜配合飼料一號

原料　配合割合

大麥　四五、〇%

備考　稗麥、燕麥、玉蜀黍、高粱、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　四五、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ大麥ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一五%ヲ超ユルコトヲ得ズ

家畜配合飼料二號

原料　配合割合

玉蜀黍　四〇、〇%

備考　高粱、大麥、稗麥、燕麥、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　五三、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ大麥ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

家畜配合飼料一號

原料　配合割合

大麥　四五、〇%

備考　稗麥、燕麥、玉蜀黍、高粱、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　四五、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ大麥ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

家畜配合飼料三號

原料　配合割合

大豆油粕　六〇、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一五%ヲ超ユルコトヲ得ズ

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ大麥ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

養鷄配合飼料一號

原料　配合割合

玉蜀黍　五六、〇%

備考　高粱、大麥、稗麥、燕麥、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　一二、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ五%ヲ超ユルコトヲ得ズ

計　一〇〇、〇

養鷄配合飼料二號

原料　配合割合

玉蜀黍　六五、〇%

備考　高粱、大麥、稗麥、燕麥、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　一四、〇%

備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ七%ヲ超ユルコトヲ得ズ

魚粕　一〇、〇%

備考　大豆油粕ヲ以テ代用スルコトヲ得

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一五%、大麥ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍（代用物品ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ魚粉、魚粕、鱞蛸其ノ他ノ動物質飼料ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一五%、玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ一〇%ヲ超ユルコトヲ得ズ

粕　一〇、〇%

備考　大豆油粕ヲ以テ代用スルコトヲ得

麩

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ五%ヲ超ユルコトヲ得ズ

貝殼　〇、五

食鹽　三、五

計　一〇〇、〇

養鷄配合飼料二號

原料　配合割合

玉蜀黍　六五、〇%

備考　高粱、大麥、稗麥、燕麥、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得

大豆油粕　八、〇

備考　米糠油粕、玉蜀黍脫脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醬油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又

ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ五%ヲ超ユルコトヲ得ズ

貝殼	二・五
食鹽	〇・五
計	一〇〇・〇

養鶏配合飼料三號

原料	配合割合
玉蜀黍	六〇・〇
備考　高粱、大麥、稗麥、燕麥、粟、稗、黍、屑米、屑麥又ハ屑藷類ヲ以テ代用スルコトヲ得	
大豆油粕	一四・〇
備考　落花生油粕、胡麻油粕、亞麻仁油粕其ノ他ノ植物油粕、魚粉、魚粕、蠶蛹其ノ他ノ動物質飼料又ハ玉蜀黍(代用物品ヲ含ム以下同ジ)ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ七%ヲ超ユルコトヲ得ズ	
粕	一五・〇
備考　大豆油粕ヲ以テ代用スルコトヲ得	
麸	八・〇
備考　米糠油粕、玉蜀黍脱脂胚芽、麥糠、高粱糠、酒精粕、澱粉粕、醤油粕、粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スルコトヲ得但シ粟糠、玉蜀黍皮、大豆皮又ハ玉蜀黍ヲ以テ代用スル場合ニ在リテハ其ノ割合ハ五%ヲ超ユルコトヲ得ズ	
貝殼	二・五
食鹽	〇・五
計	一〇〇・〇

◉農商省告示第百三十號

飼料販賣取締規則第六條ノ規定ニ依リ同條ノ指定飼料並ニ配合飼料及指定飼料ノ販賣價格左ノ通指定シ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年十月農林省告示第三百七十四號(飼料販賣取締規則第六條ノ規定ニ依ル同條ノ指定飼料並ニ配合飼料及指定飼料ノ販賣價格指定ノ件)、同年十二月農林省告示第四百四十四號(同)、昭和十五年十月農林省告示第百十八號(同)、同年四月農林省告示第百八十一號(同)、同年五月農林省告示第二百二十四號(同)、同年六月農林省告示第二百六十七號(同)、同年七月農林省告示第三百十二號(同)、同年七月農林省告示第三百二十五號(同)、同年九月農林省告示第四百十八號(同)、同年十月農林省告示第五百二十九號(同)、同年十一月農林省告示第五百四十七號(同)、同年十一月農林省告示第五百五十三號(同)、同年十一月農林省告示第五百七十號(同)、同年十二月農林省告示第六百四十一號(同)、同年十二月農林省告示第六百六十三號(同)、昭和十六年一月農林省告示第六百八十二號(同)、同年三月農林省告示第七百一號(同)、同年四月農林省告示第七百六號(同)、同年四月農林省告示第七百七號(同)、同年四月農林省告示第七百十二號(同)、同年十月農林省告示第七百十三號(同)、同年十二月農林省告示第八百十三號(同)、同年十二月農林省告示第八百九十一號(同)、同年十二月農林省告示第八百九十六號(同)、同年十二月農林省告示第九百十四號(同)、昭和十七年四月農林省告示第九百五十二號(同)、同年四月農林省告示第九百九十七號(同)、同年四月農林省告示第二百五十三號(同)、同年五月農林省告示第二百七十三號(同)、同年五月農林省告示第三百三十九號(同)、同年五月農林省告示第三百九十六號(同)、同年六月農林省告示第四百五十號(同)、同年六月農林省告示第四百五十二號(同)、同年七月農林省告示第四百五十五號(同)、同年七月農林省告示第四百五十七號(同)、同年七月農林省告示第四百七十六號(同)、同年七月農林省告示第四百七十七號(同)、同年七月農林省告示第五百十二號(同)、同年七月農林省告示第五百二十五號(同)、同年七月農林省告示第七百四十六號(同)、同年十一月農林省告示第七百七十七號(同)、同年十二月農林省告示第七百十一號(同)、同年十二月農林省告示第七百十六號(同)、同年十二月農林省告示第七百十七號(同)、同年十二月農林省告示第八百九號(同)、同年十二月農林省告示第八百十一號(同)、同年十二月農林省告示第八百十九號(同)、同年十二月農林省告示第八百九十九號(同)、同年十二月農林省告示第九百十五號(同)、同年十二月農林省告示第九百十六號(同)、昭和十八年五月農林省告示第二百二十五號(同)、同年五月農林省告示第二百七十五號(同)、同年七月農林省告示第四百九號(同)、同年七月農林省告示第四百二十一號(同)、同年七月農林省告示第五百五十二號(同)、昭和十九年一月農商省告示第五號(同)、同年五月農商省告示第八十九號(同)、同年五月農商省告示第九十五號(同)、同年五月農商省告示第六百十四號(同)及昭和十六年九月農商省告示第六百十三號(同)、同年九月農商省告示第六百十四號(同)及昭和十六年九月商工省告示第一號(同)ハ昭和二十年二月二十八日限リ之ヲ廢止ス

昭和二十年二月二十八日

農商大臣　島田　俊雄

一、同條ノ指定飼料

飼料用玉蜀黍　飼料用稗　飼料用高粱　飼料用大麥　飼料用燕麥(北海道產ノモノ)　飼料用大豆油粕　飼料用魚粕　麸　玉蜀黍脱脂胚芽　高粱糠　粟糠　乾燥酒精粕　玉蜀黍皮　大豆皮　ビートパルプ　グルーテンフィード　輸入草ノ實　補助更生飼料一號

品目	單位	製造業者販賣價格	日本飼料統制株式會社販賣價格	販賣業者販賣價格
家畜配合飼料一號	裸正味六〇瓩(一〇〇〇斤)	一五・四八	一五・七八	一五・七八
〃一號	〃	—	—	—
〃二號	〃	—	—	—
〃三號	〃	—	一三・七〇	一四・〇〇
養鶏配合飼料一號	〃	—	一三・八六	一四・〇六
〃二號	〃	—	一四・五〇	一四・八〇
〃三號	〃	—	一四・七五	一五・〇五
飼料用玉蜀黍	〃	—	一六・〇〇	一六・〇〇
〃高粱	〃	—	一六・〇五	一六・〇五
〃大麥	〃	—	一六・〇七	一六・〇七
〃稗麥	〃	—	一六・〇七	一六・〇七
〃燕麥(北海道產ノモノ)	〃	—	一六・〇七	一六・〇七
〃大豆丸粕	包裝込正味四〇瓩(一〇〇〇斤)	—	一七・二九	一七・〇〇
〃大豆撒粕	〃	—	九・〇〇	九・二〇
飼料用粕粉末	〃	—	九・八九	—
〃魚粕	〃	—	一二・四六	—
〃椰子油粕粉末	〃	—	七・九五	八・二五
麸	包裝込正味一〇貫(一〇〇〇斤)	—	一三・六一	—
玉蜀黍脱脂胚芽	〃	—	六・七四	七・〇四
高粱糠	〃	—	八・〇一	八・三一
乾燥酒精粕	〃	—	六・一六	六・四六
飼料用乾燥普通甘藷澱粉粕	裸正味六〇瓩(一〇〇〇斤)	—	九・四五	九・七五
飼料用乾燥普通馬鈴薯澱粉粕	包裝込正味一〇貫	—	一一・五三	一一・七一
粟糠	〃	—	一一・〇〇	一一・一八
玉蜀黍皮	〃	四・五〇	五・三〇	五・六〇
大豆皮	〃	四・九五	五・六三	五・九三
ビートパルプ	〃	四・九五	五・二七	五・五七
グルーテンフィード	〃	四・〇〇	五・六〇	五・九〇
輸入草ノ實	裸正味六〇瓩(一〇〇〇斤)	—	六・五〇	六・八〇
補助更生飼料一號	包裝込正味六〇瓩(一〇〇〇斤)	七・二六	七・五六	七・八六
備考	包裝込正味一〇貫	一二・八四	一三・五〇	一三・六八

(イ)製造業者ノ販賣價格ハ製造地ノ驛貨車乘渡若ハ製造地ノ港船積渡又ハ之ニ準ズル場合ノ價格トス

(ロ)日本飼料統制株式會社販賣價格及販賣業者ノ販賣價格ハ省線若ハ連帶運輸ヲ爲ス社線各驛著貨車乘渡又ハ主要港著船側渡ノ價格トス但シ日本飼料統制株式會社及販賣業者(內地產米糠ノ分ヲ除ク)ノ販賣價格ニ付テハ工場ヨリ直取スル場合ハ小口扱ニ依リ運送スル場合ニ在リテハ運送賃ハ買受人ノ負擔トシ正味六〇瓩(一〇〇〇斤)ニ付一五錢引トシ一車ニ滿タザル機帆船輸送又ハ一〇瓩ニ滿タザル貨車輸送又ハ一〇瓩ニ在リテハ之ニ要シタル餘分ノ諸掛及運送賃ノ實費ヲ別ニ加算シ得ルモノトス

(ハ)及(ロ)ニ依ル受渡場所以外ノ場所ニ於テ受渡ヲ爲ス場合ハ運送賃其ノ他ノ實費ヲ別ニ加減シ得ルモノトス

(ニ)全國農業經濟會ノ配合飼料ノ販賣價格ハ日本飼料統制株式會社販賣價格ニ依ル

(ホ)包裝込トハ俵入又ハ叺入(飼料用乾燥澱粉粕ニ付テハ俵入、叺入又ハ麻袋入)トス

包裝込ノモノヲ裸賣スル場合、裸賣ノモノヲ包裝込ニテ販賣スル場合又ハ前項ニ掲グル包裝以外ノ特殊包裝込ニテ販賣スル場合ハ之ニ要シタル實費ヲ別ニ加減シ得ルモノトス

麻袋入ノモノヲ裸賣スル場合ハ麻袋ノ返還ヲ確實ナラシムル爲賣渡人ハ其ノ買受人ヨリ一袋ニ付二圓以內ノ保證金ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(ヘ)補助更生飼料一號トハ新鮮ナル生產物加工殘滓(魚類罐詰、蒲鉾、鰹節等ノ製造殘滓)及高粱糠ヲ重量比二對一ノ割合ヲ以テ配合混和シ人工乾燥法ニ依リ乾燥シタルモノニシテ水分一三%以下、粗蛋白質含有量二五%以上ノモノトス

(ト)乾燥酒精粕トハ水分一五%以下ニシテ粗灰分一三%以下ノモノトス

(チ)飼料用乾燥普通甘藷澱粉粕トハ生粕ヲ良ク洗滌シ土砂其ノ他ノ夾雜物ヲ除去シ衞生的ニ水分一八%以下ニ乾燥處理シタルモノトス

(リ)飼料用乾燥普通馬鈴薯澱粉粕トハ生粕ヲ良ク洗滌シ土砂其ノ他ノ夾雜物ヲ除去シ衞生的ニ水分二二%以下ニ乾燥處理シタルモノトス

(ヌ)從前ノ配合割合ニ依リ製造セラレタル配合飼料ノ販賣價格ハ仍從前ノ價格ニ依ル

◉農商省告示第百三十一號

飼料販賣取締規則第六條及肥料配給統制規則第十一條ノ規定ニ依リ米糠及米糠油粕ノ販賣價格左ノ通指定シ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年三月農林省告示第百五號(飼料販賣取締規則第六條及肥料配給統制規則第十一條ノ規定ニ依ル米糠及米糠油粕ノ販賣價格指定ノ件)、昭和十六年十七年六月農林省告示第四百四十七號(同)及昭和十七年二月農林省告示第七百五十號(同)及昭和二十年二月二十八日限リ之ヲ廢止ス

昭和二十年二月二十八日

農商大臣　島田　俊雄

品名	單位	生產者販賣價格	日本飼料統制株式會社販賣價格	販賣業者販賣價格
內地產無砂米糠	包裝込正味八貫	三・二〇	三・三八	—
內地產混砂米糠	〃	二・八〇	二・九八	—
內地產米糠油粕	包裝込正味九貫	—	—	—
輸移入米糠	裸正味六〇瓩(一〇〇〇斤)	四・六〇	四・九七	五・一五
輸移入米糠油粕	〃	—	六・一〇	六・四〇
備考			八・八三	九・一三

(イ)內地產米糠ノ生產者販賣價格及販賣業者販賣價格ハ生產者ハ生產者販賣價格、內地產米糠油粕ノ生產者販賣價格ハ搾油業者ノ工場所在地ノ港船積渡若ハ內地產米糠ノ工場所在地ノ港船積渡若ハ內地產米糠油粕ノ日本飼料統制株式會社及米糠移入米糠及米糠油粕ノ販賣業者ノ販賣價格ハ省線、輸

長野
松本市　池田鶴藏
長野縣下伊那郡鼎村　河野一郎
岐阜
岐阜市　有限會社岐阜製粉所
岐阜市　合資會社渡邊寅吉商店
岐阜市　日本精穀製粉株式會社
本巢郡穂積村　株式會社橋本澱粉豆腐
大垣市　調味料製造所
高山市　株式會社大垣共同製粉工場
羽島郡竹ヶ鼻町　有限會社飛彈製粉所
多治見市　羽島製粉所
武儀郡瀬尻村　多治見共同製粉所
岡崎市　有限會社武儀製粉所
靜岡
清水市　靜岡縣食糧品工業株式會社
濱名郡北濱村　西遠北濱小麥粉製造工業小組合
愛知
半田市　尾張製粉株式會社
碧海郡棚尾町　小笠原仙太郎
南設樂郡新城町　野口信司
豐橋市　山本勇一
寶飯郡蒲郡町　志賀八五郎
碧海郡旭村　小澤實太郎
碧海郡大山町　吉田有年
碧海郡刈谷町　飯塩耐三
岡崎市　東福製粉株式會社岡崎工場
滋賀
神崎郡能登川町　滋賀共同製粉所
大津市　大津製粉所
甲賀郡石部町　日昇製粉所
三重
津市　鈴木製粉所
三重郡大矢知村　陣田製粉株式會社
津市　三重製粉興業株式會社
宇治山田市　辻本孝三
安濃郡村主村　松島彌三八
三重郡八鄉村　村上榮太郎
四日市市　蔭邊盈三
三重郡大矢知村　小林幸三
桑名市　有限會社桑名製粉所
四日市市　富山製粉有限會社
大阪
大阪市大正區　大阪製粉株式會社
泉南郡貝塚町　株式會社和泉製粉所
兵庫
神戸市兵庫區　日本精米製粉株式會社
揖保郡香島村　井口勇
神戸市神戸區　株式會社增田製粉所
揖保郡太市村　合名會社玉田製粉所
四宮市　昭和穀粉工業株式會社
揖保郡神岡村　森崎忠作
揖保郡神岡村　森口萬次郎
姫路市　苦瓜五郎
伊丹市　今井治六
奈良
磯城郡櫻井町　株式會社金澤製粉所
奈良市　大和製粉株式會社
磯城郡朝倉村　巽熊太郎
和歌山
和歌山市　北川源次郎
和歌山市　南興製粉株式會社
那賀郡田中村　山本皓造
京都
京都市下京區　京都製粉株式會社
島根
美濃郡石見町　宮內輝一
山口
防府市　金子製粉株式會社
岡山
玉野市　中國飼料合資會社
後月郡高屋町　吉備郡總社村
廣島
蘆品郡網引村　旭製麵株式會社
沼隈郡神村　近藤嘉平
蘆品郡新市町　大下仁助
豐田郡下北方村　有限會社本鄉製粉製麵所
福山市　吉田箭之介
尾道市　備後製粉有限會社
呉市　碓井中曰
廣島市　廣島製粉有限會社
福山市　東陽物產有限會社
三原市　眞島範春
深安郡御野村　御領麵業有限會社
香川
仲多度郡多度津町　日讚製粉株式會社
三豐郡觀音寺町　四國製粉株式會社
綾歌郡坂出町　合資會社西川精麥所
香川郡安原村　有限會社香南精粉所
三豐郡辻村　植野俊一
綾歌郡坂出町　讚岐穀產株式會社
三豐郡吉津村　讚岐米肥株式會社
德島
德島市　（德島製粉製麵所）
板野郡松坂村　庄野和三郎
愛媛
松山市　西谷末吉
市川與一郎
高知
高知市　有限會社愛媛縣製粉所
土佐食糧工業株式會社
福岡
福岡市　東福製粉株式會社
浮羽郡吉井町　合資會社鳥志商店
浮羽郡吉井町　株式會社鳥越商店
佐賀
神崎郡蓮池町　合資會社鵜池商店
三養基郡田代町　宮原陸藏
熊本
球磨郡人吉町　三角光雄
熊本市　豐國製粉株式會社
菊池郡大津町　肥後製粉株式會社
大分
日田市　原澤合名會社
宮崎
都城市　坂元忠一
宮崎郡佐土原町　有限會社日向製粉所
延岡市　延岡共同製粉工業有限會社
都城市　都城製粉製麵有限會社
兒湯郡高鍋町　日興製粉有限會社
都農場　有限會社高鍋製粉工場
兒湯郡都農町　都農製粉有限會社
西諸縣郡小林町　日本澱粉工業株式會社小林製粉工場
鹿兒島
鹿兒島市　合名會社竹內弘生會
鹿兒島市　中尾製粉製麵有限會社
鹿兒島市　旭製麵製粉株式會社
日置郡日置村　有限會社大樂製粉所
姶良郡栗野村　黑田民夫
川內市　莫友製粉株式會社

敍任及辭令

◎昭和十六年三月十一日
敍勳七等　小林　喜一
敍勳六等授瑞寶章
◎昭和十六年十二月十二日
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年三月十日
敍勳八等　植松　喜一
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年四月八日
（各通）同　敍勳八等　白須二琅
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年七月八日
敍勳八等　渡邊　正一
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年八月十九日
敍勳八等　筌口　文夫
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年九月八日
（各通）同　敍勳八等　阿度　曉明
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十七年十二月九日
敍勳八等　佐々木友市
敍勳七等授瑞寶章
◎昭和十八年三月九日
（各通）同　敍勳六等　寺內　祥一
敍勳五等授瑞寶章
同　勝目　英
敍勳七等　後藤　滿雄
敍勳六等授瑞寶章
敍勳七等授瑞寶章
敍勳八等　羽藤　源助
◎昭和十八年三月三十一日
從七位　澁江友之助
◎昭和十八年七月十四日
敍勳七等授瑞寶章
（各通）同　笠原　眞作　同　大島　寬一
同　船田保四郎　同　稻益　繁
同　柳原陽之助　同　川口　洋
同　高江富二郎　同　久米　幸延
同　藤山　市治　同　平原　浩哉
同　溝越　禮敬
敍勳六等授瑞寶章
敍勳八等　仁平　貞六
◎昭和十九年七月十六日
敍從七位
◎昭和十九年八月五日
任文部技手　武居　三郎
敍高等官七等
◎昭和十九年九月二日
任陸軍司政官　天野　健二
敍高等官七等
◎昭和十九年九月二日
任陸軍屬　陸軍屬　定松　一二
敍高等官七等
◎昭和十九年九月九日
任地方事務官　內務屬　佐藤　徹藏
敍高等官七等
◎昭和十九年九月二十四日
敍從七位　森田捨次郎
◎昭和十九年十一月五日
任陸軍技師　陸軍技手　平田哲太郎
敍高等官七等
◎昭和十九年十一月二十九日
任海軍技師　小川兼三郎
敍高等官七等
敍從七位　西山　春吉
◎昭和十九年十二月四日
敍從七位　川原　利熊
◎昭和十九年十二月八日
敍從七位　中出猛四郎
◎昭和十九年十二月十五日
敍從七位　大島　順一
◎昭和十九年十二月二十二日
敍從六位　清澄
敍從七位　久保
◎昭和十九年一月二十四日
敍從七位　座間　福司
敍正七位
◎昭和十九年一月二十六日
敍正八位　迫田　寶市
◎昭和十九年一月二十七日
（各通）同　正六位　關口　一元
同　江藤　定男
敍從五位

◎昭和二十年一月二十九日
敍正六位　從六位　西村　清
（各通）　從七位　中島　好男
同　黑川農夫男
同　小塚　喜久
敍正七位
◎昭和二十年一月三十日
敍正七位　從七位　金子正太郎
敍從七位　黑田　貫忠
◎昭和二十年二月十七日
任刑務技師　刑務技手　佐伯　博之
敍高等官六等
任通信事務官　通信書記　籠　終濟
敍高等官七等
朝鮮總督府
安北道郡屬　松山　清
任朝鮮總督府道理事官
敍高等官七等
◎昭和二十年二月十九日
敍從四位　正五位　熊谷　直太
◎昭和二十年二月二十日
敍從五位　正八位　光永　星郎
◎昭和二十年二月二十七日
（各通）　專賣局屬　清水　英武
同　專賣局屬　田村　稔
任專賣局事務官
敍高等官六等
（各通）
財務局屬　伊藤哲次郎
稅務署屬　鹿又　亟郊
任司稅官
敍高等官六等
貴族院書記官　宮坂　完孝
兼任文部書記官
敍高等官五等
任東北帝國大學教授　菊池　喜充
敍高等官五等
軍事保護院醫官　畠山　辰夫
兼任東北帝國大學助教授
敍高等官四等
九州帝國大學書記　中野　葛二
任九州帝國大學事務官
敍高等官六等
同　手島角四郎
任九州帝國大學書記
敍高等官六等
任北海道帝國大學助教授　大味　新學
敍高等官七等
公立中等學校教諭　吉濱　謙三
任靜岡第一師範學校教諭兼靜岡第一師範學校教授
敍高等官六等
愛知第一師範學校助教授　栗本　勤
（各通）同　江尻保之助
任愛知第一師範學校教授
敍高等官七等
同　西尾　寬
任愛知第一師範學校教授兼愛知第一師範學校教諭
敍高等官七等
沖繩師範學校教諭　漢那　憲秀
任沖繩師範學校教授
敍高等官七等
同　嘉數　德松
任沖繩師範學校教諭
敍高等官七等
茨城青年師範學校教授　松田　義夫
任宮崎青年師範學校教授
敍高等官七等
任鳥取農林專門學校教授　今井　一郎
敍高等官七等
和歌山經濟專門學校教授　北野熊喜男
任福島經濟專門學校教授
敍高等官七等
姫路高等學校教授　南部　璟
兼任姫路高等學校生徒主事
敍高等官三等
旅順工科大學豫科教授　辰巳　隆
任廣島高等學校教授
敍高等官六等
外務事務官　柿坪　正義
兼任大東亞事務官
敍高等官三等
生絲檢査所技手　保延　善孝
任生絲檢査所技師
敍高等官七等
水產試驗場技手　岡本五郎三
任水產試驗場技師
敍高等官六等
兼任軍需省軍需監理官　鐵道官　高橋　榮一
敍高等官四等
海軍技師　石田　美雄
兼任軍需省軍需監理官
敍高等官六等
關東局中等學校教諭　山岸榮三郎
任關東局中等學校長
敍高等官四等
北海道帝國大學附屬醫學專門部助教授　金上　弘
任樺太醫學專門學校教授
敍高等官七等
鳥取縣屬　佃　武雄
任地方事務官
敍高等官八等
神奈川縣警部　萩原　幸吉
任地方警視
敍高等官七等
內務技手　松山　幹之
（各通）神奈川縣技手　武田　士郎
同　家富　包雄
同　長崎縣技手　西　庫二
三重縣技手　大塚　勇次
任地方技師
敍高等官七等
稻田　宣男
公立專門學校教授兼姫路高等學校教諭
高等官三等ヲ以テ待遇セラル
濱崎　邦夫
高橋　武雄
（各通）
公立專門學校教授ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
關東局中等學校長　山口　勳
公立中等學校長ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
九州帝國大學助教授　陳　維一郎
同　國　石原
（各通）　奧野　勇喜
長崎縣技手　高野　義臣
三重縣技手　河野　博範
公立專門學校教授ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
公立中等學校長ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル
富山縣立氷見高等女學校教諭　池田　武
同　三木　乘俊
富山縣立新湊高等女學校教諭　田中紀元次
（各通）
山口縣立光中學校教諭　村上　榮彥
山口縣立岩國高等女學校教諭　向島　成諦
山口縣立小野田女子商業學校教諭　松田　正治
山口縣立熊毛高等學校教諭兼山口縣立熊毛高等女學校舍監　岡井　ツマ
公立中等學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
公立中等學校教諭　岡井　ツマ
（各通）同　藤島　朝子
同　前澤　尙武
公立中等學校舍監ニ兼任ス
國民學校訓導　松野　春風
（各通）同　大森清太郎
同　瀧野　道慶
同　櫻原賢太郎
奉天富士青年學校教諭　竹之內秀夫
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
陸軍技師　辻　猪市
陞敍高等官四等
同　富岡　裕
陞敍高等官五等（以上十九年三月二十四日內閣）
陸軍教授　池田　武男
陞敍高等官五等（二月十七日同）
結城豐太郎
外資金庫設立委員長被免
法制局長官　三浦　一雄
大藏政務次官　小笠原三九郎
大藏參與官　田村　秀吉
大藏省主計局長　植木庚子郎
大藏省外資局長　久保　文藏
陸軍主計中將　栗橋　保正
海軍主計中將　山本丑之助
司法省民事局長　齋藤　直一
大東亞次官　竹內　新平
大東亞省總務局長　安東　義良
日本銀行總裁子爵　澁澤　敬三
子爵　八條　隆正
一　太田　正孝
外資金庫設立委員被免
司稅官　石原　曠
陞敍高等官四等
姫路高等學校教授兼姫路高等學校生徒主事　猪股　英夫
任姫路高等學校生徒主事兼姫路高等學校教授
栃木師範學校教諭兼栃木師範學校教授　渡邊　克英
兔本官事任栃木師範學校教授
山梨工業專門學校教授　三谷　利重
依願免本官
大東亞事務官　藤牧　直
滿洲拓植委員會ニ於ケル帝國委員臨時隨員被仰付

同 同 同